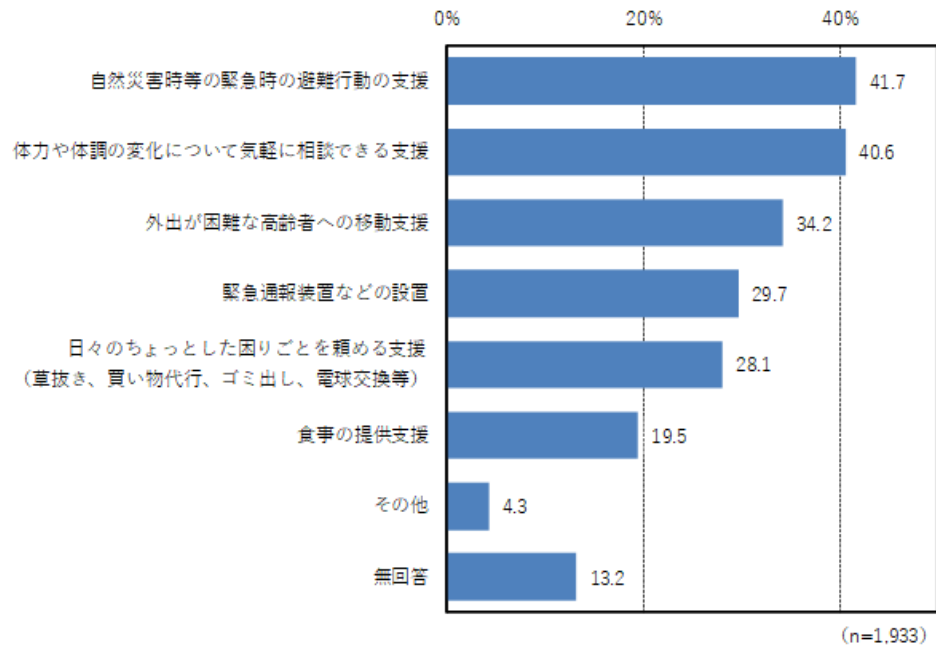


高齢者の暮らしと介護についてのアンケート調査結果

○基本目標「共に支え合う地域づくり」、重点課題①「包括的な支援体制の構築」についてのアンケート結果から見る課題

問65（高齢者） どのような生活支援があればいいと思いますか。

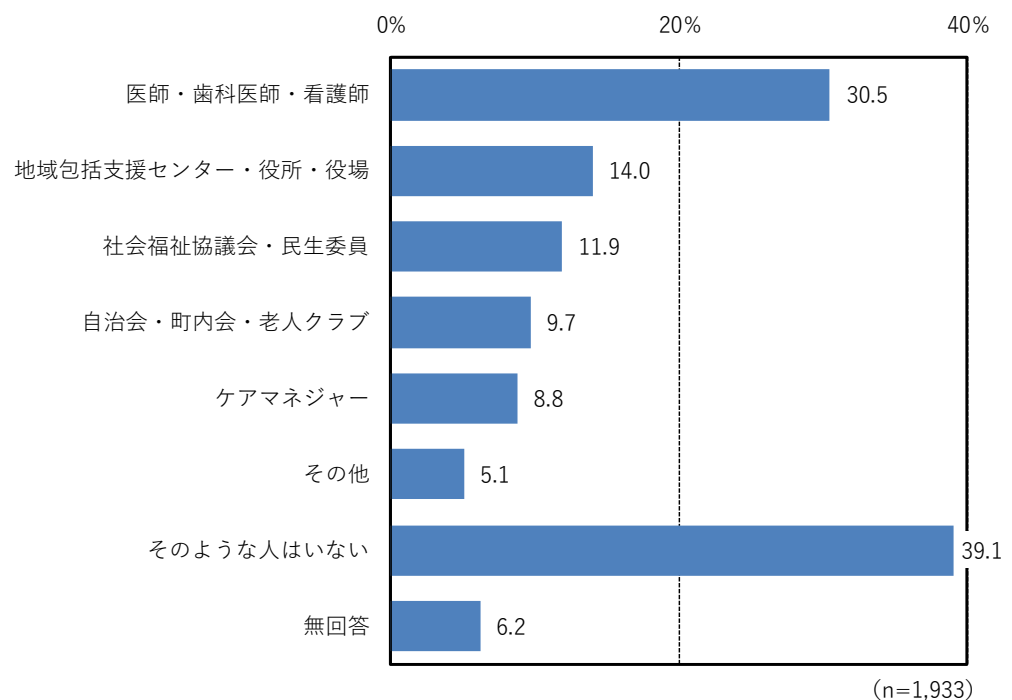
高齢者（65 歳以上）



必要な生活支援として、「体力や体調の変化について気軽に相談できる支援」の割合が高くなっている。

問 47（高齢者） 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。

高齢者（65 歳以上）

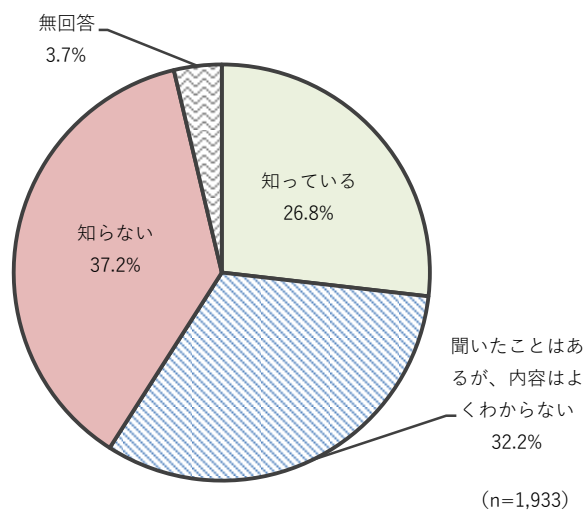


家族や友人・知人以外の相談先として、最も多いのは「医師・歯科医師・看護師」の 30.5%、次いで「地域包括支援センター・役所・役場」の 14.0%、「社会福祉協議会・民生委員」の 11.9%と続いており、公的機関等の割合が低い傾向にある。

問 68（高齢者）

高松市では、地域における高齢者の身近な相談窓口として、「高松市地域包括支援センター」を設置しています。「高松市地域包括支援センター」を知っていますか。

高齢者（65歳以上）

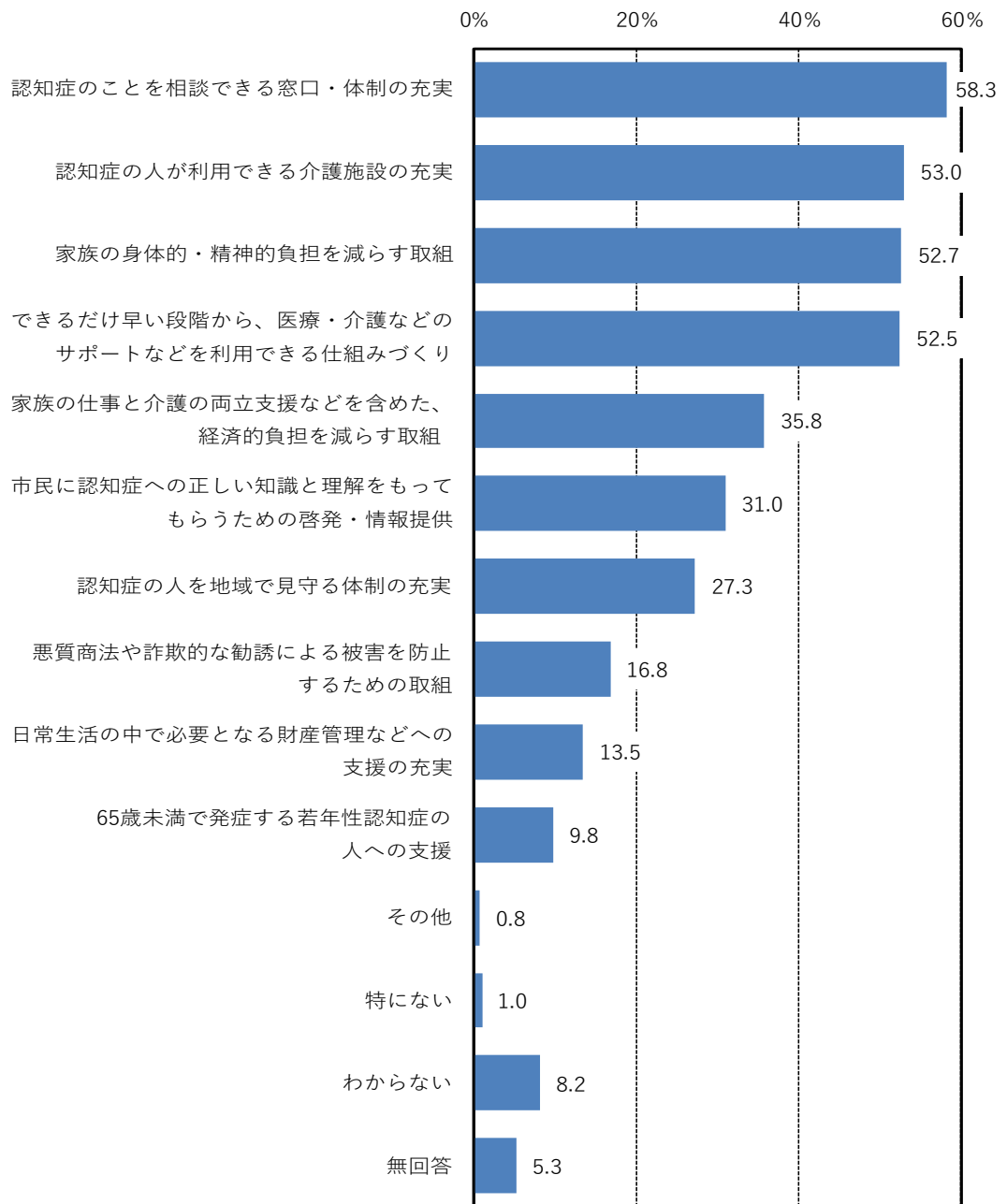


「高松市地域包括支援センター」の認知度は 26.8%と低い状況である。

問 73（高齢者）

認知症になっても、地域で安心して暮らすことができるためには、どのようなことに重点を置くべきだと思いますか。

高齢者（65 歳以上）



(n=1,933)

認知症になっても安心して暮らせるために重点を置くべきことは、多い順に「認知症のことを相談できる窓口・体制の充実」の 58.3%、次いで「認知症の人が利用できる介護施設の充実」の 53.0%、「家族の身体的・精神的負担を減らす取組」の 52.7%となっている。

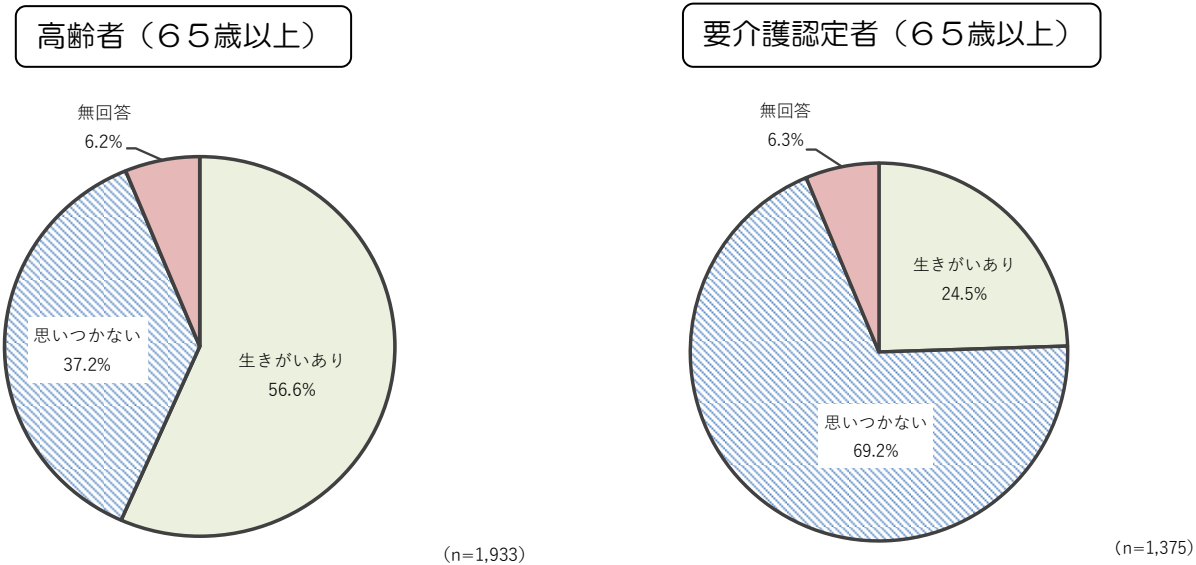
課題

＊高齢者が住み慣れた地域で安心して自分らしく暮らすためには、必要なサービスを必要なタイミングで受ける必要があり、そのための適切な情報提供や相談体制の充実が求められる。

＊ひとり暮らし高齢者世帯や高齢者が高齢者の介護を行う世帯では、家族の介護力に限界があり、医療、介護といった専門的なサービスの充実とともに、住民が主体となった身近な助け合いや孤立化を防止するための見守り等のさらなる取り組みが必要である。

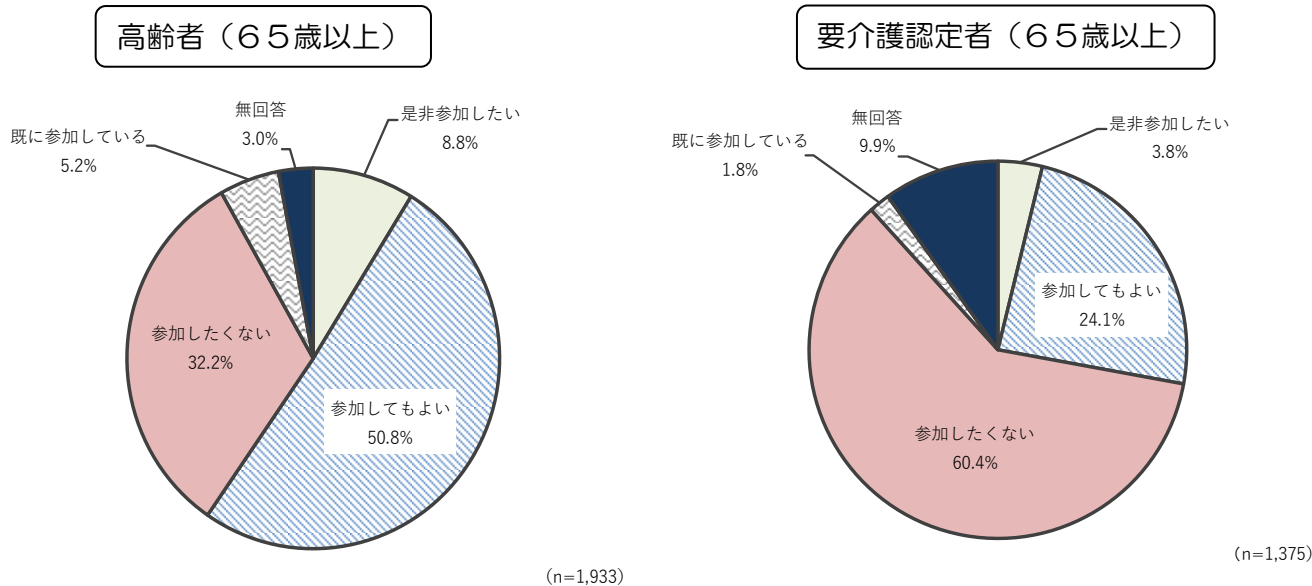
○基本目標「自分らしい生活と生きがいづくり」、重点課題②「介護予防と社会参加の推進」についてのアンケート結果から見る課題

問39（高齢者） 問41（要介護認定者）	生きがいはありますか。
-------------------------	-------------



「生きがいはある」の割合は、高齢者で 56.6%、要介護認定者で 24.5%となっている。

問41（高齢者） 問43（要介護認定者）	地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。
-------------------------	--

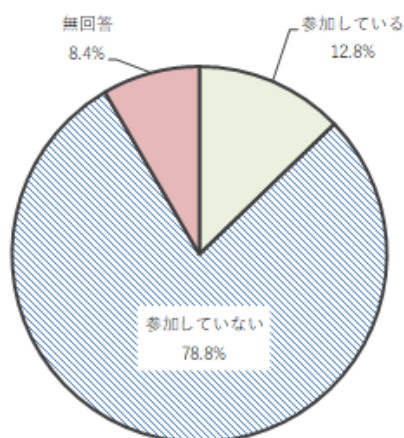


健康づくり活動や趣味等のグループ活動に参加者として「参加してみたい」人の割合は、高齢者で 50.8%、要介護認定者で 24.1%となっている。

問66（高齢者）
問70（要介護認定者）

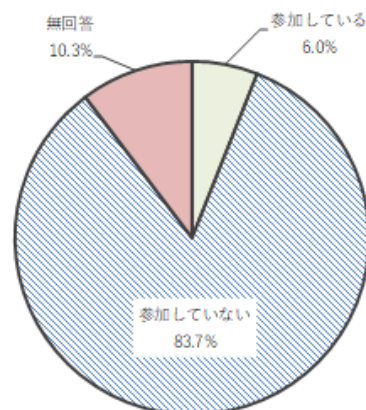
高齢者が気軽に集える場所に参加していますか。

高齢者（65歳以上）



(n=1,933)

要介護認定者（65歳以上）



(n=1,375)

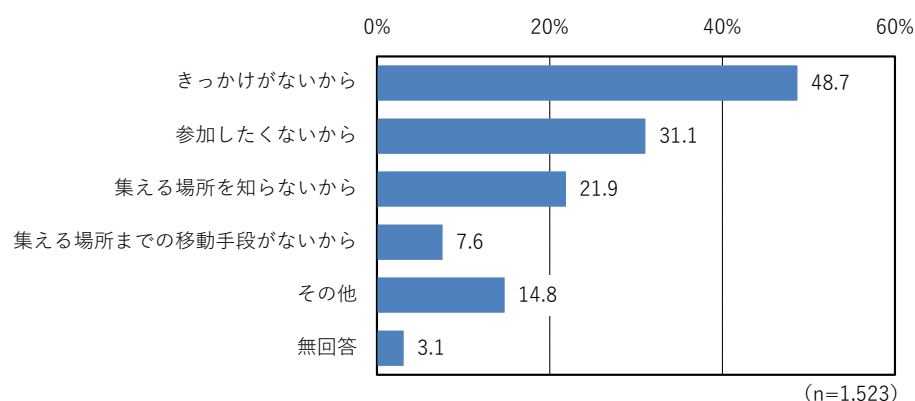
高齢者が気軽に集える場所に「参加している」人の割合は、高齢者で 12.8%、要介護認定者で 6.0% となっている。

問66-2（高齢者）

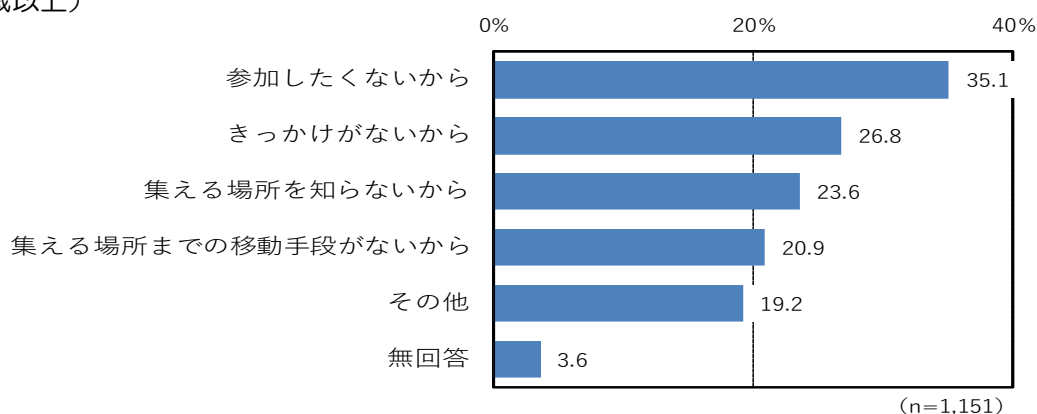
問70-2（要介護認定者）

高齢者が気軽に集える場所に「参加していない」と回答した方
参加しない理由は何ですか。

高齢者（65歳以上）



要介護認定者（65歳以上）

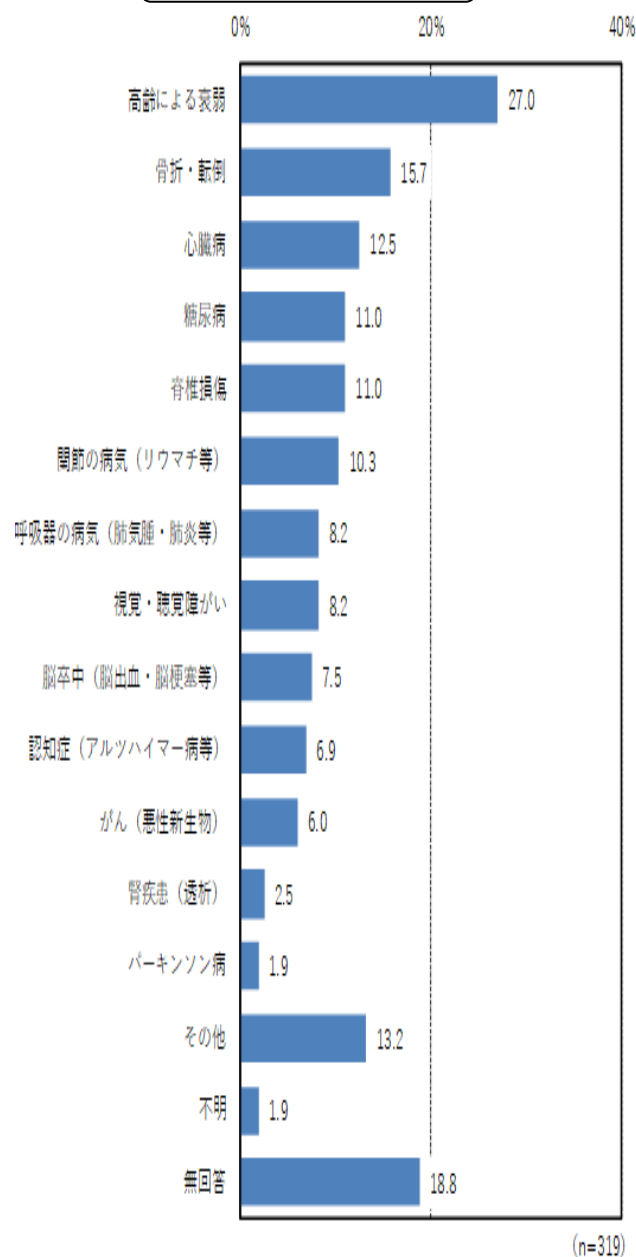


集える場所に参加しない理由として、「きっかけがないから」「参加したくないから」の意見が多く となっている。

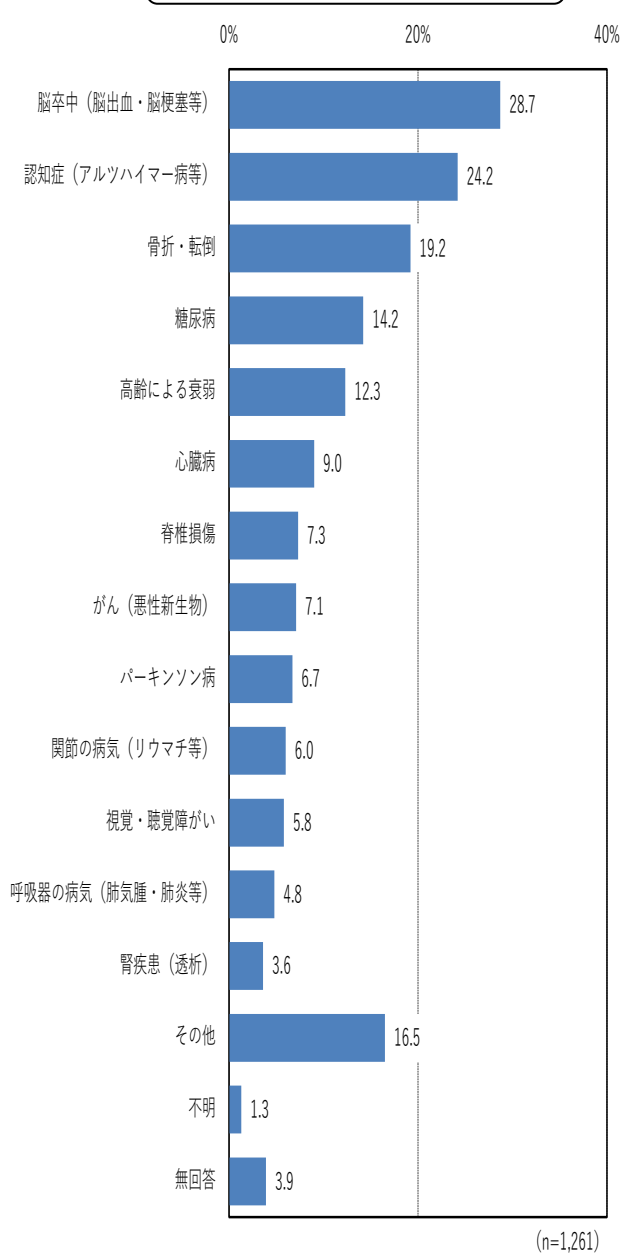
問 2-1（高齢者）
問 2-1（要介護認定者）

介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。
（高齢者は何らかの介護が必要だが、認定を受けていない人）

高齢者（65歳以上）



要介護認定者（65歳以上）



介護・介助が必要になった主な原因は、高齢者では「高齢による衰弱」と回答した人の割合が最も高く、27.0%。次いで、「骨折・転倒」（15.7%）、「心臓病」（12.5%）。要介護認定者では「脳卒中」と回答した人の割合が最も高く、28.7%。次いで「認知症」で24.2%。

課題

＊持続的かつ現実的な生きがいづくり・介護予防事業の展開。
＊高齢者が長年培ってきた優れた技術や経験、知識等の持てる力を発揮できる活躍の場、社会参加の場の確保と仕組みづくり。
＊生活機能が低下する前の健康な時から、個人に合わせた適切な予防を行うなど、健康寿命の延伸に向けた、介護予防・重症化予防の推進。

○基本目標「安心して暮らし続けられる環境づくり」、重点課題③「生活環境の充実」について
のアンケート結果から見る課題

問 89（高齢者）	あなたが介護が必要になった場合に、将来の住まいと介護サービスの利用について、どのように考えていますか。																		
高齢者（65 歳以上）	<table border="1"><thead><tr><th>回答内容</th><th>割合</th></tr></thead><tbody><tr><td>在宅での介護サービスを利用して、できる限り現在の住まいや地域に住み続けたい</td><td>34.8%</td></tr><tr><td>在宅での介護サービスを利用せずに、できる限り現在の住まいや地域に住み続けたい</td><td>9.9%</td></tr><tr><td>ケア付き住宅（高齢者向けの各種サービスの利用が可能な住宅）に早めに住み替えたい</td><td>5.0%</td></tr><tr><td>介護が必要になったときに、施設（特別養護老人ホーム等）に入所したい</td><td>16.5%</td></tr><tr><td>今のところ、よくわからない</td><td>28.7%</td></tr><tr><td>無回答</td><td>4.7%</td></tr><tr><td>その他</td><td>0.4%</td></tr></tbody></table> (n=1,933) 今後、介護が必要になった場合の住まいと介護サービスの利用希望について、「在宅での介護サービスを利用して、できる限り現在の住まいや地域に住み続けたい」と回答した人の割合が最も高く、34.8%となっている。	回答内容	割合	在宅での介護サービスを利用して、できる限り現在の住まいや地域に住み続けたい	34.8%	在宅での介護サービスを利用せずに、できる限り現在の住まいや地域に住み続けたい	9.9%	ケア付き住宅（高齢者向けの各種サービスの利用が可能な住宅）に早めに住み替えたい	5.0%	介護が必要になったときに、施設（特別養護老人ホーム等）に入所したい	16.5%	今のところ、よくわからない	28.7%	無回答	4.7%	その他	0.4%		
回答内容	割合																		
在宅での介護サービスを利用して、できる限り現在の住まいや地域に住み続けたい	34.8%																		
在宅での介護サービスを利用せずに、できる限り現在の住まいや地域に住み続けたい	9.9%																		
ケア付き住宅（高齢者向けの各種サービスの利用が可能な住宅）に早めに住み替えたい	5.0%																		
介護が必要になったときに、施設（特別養護老人ホーム等）に入所したい	16.5%																		
今のところ、よくわからない	28.7%																		
無回答	4.7%																		
その他	0.4%																		
問 65（高齢者）	どのような生活支援があればいいと思いますか。（再掲）																		
高齢者（65 歳以上）	<table border="1"><thead><tr><th>支援内容</th><th>割合</th></tr></thead><tbody><tr><td>自然災害時等の緊急時の避難行動の支援</td><td>41.7</td></tr><tr><td>体力や体調の変化について気軽に相談できる支援</td><td>40.6</td></tr><tr><td>外出が困難な高齢者への移動支援</td><td>34.2</td></tr><tr><td>緊急通報装置などの設置</td><td>29.7</td></tr><tr><td>日々のちょっとした困りごとを頼める支援（草抜き、買い物代行、ゴミ出し、電球交換等）</td><td>28.1</td></tr><tr><td>食事の提供支援</td><td>19.5</td></tr><tr><td>その他</td><td>4.3</td></tr><tr><td>無回答</td><td>13.2</td></tr></tbody></table> (n=1,933) 必要な生活支援については、「自然災害時の緊急時の避難行動の支援」と回答した人の割合が最も高く 41.7%、「外出が困難な高齢者への移動支援」が 34.2%となっている。	支援内容	割合	自然災害時等の緊急時の避難行動の支援	41.7	体力や体調の変化について気軽に相談できる支援	40.6	外出が困難な高齢者への移動支援	34.2	緊急通報装置などの設置	29.7	日々のちょっとした困りごとを頼める支援（草抜き、買い物代行、ゴミ出し、電球交換等）	28.1	食事の提供支援	19.5	その他	4.3	無回答	13.2
支援内容	割合																		
自然災害時等の緊急時の避難行動の支援	41.7																		
体力や体調の変化について気軽に相談できる支援	40.6																		
外出が困難な高齢者への移動支援	34.2																		
緊急通報装置などの設置	29.7																		
日々のちょっとした困りごとを頼める支援（草抜き、買い物代行、ゴミ出し、電球交換等）	28.1																		
食事の提供支援	19.5																		
その他	4.3																		
無回答	13.2																		
課題	＊できる限り在宅生活ができるような支援 ＊身体機能が低下した人でも健康な人と同じように外出ができ、公共施設の利用、日常的な活動や社会参加活動が特に支障なく行えるよう、移動手段の充実が必要 ＊地震などの災害時や緊急時に対応する避難行動の支援																		